

The **trend** towards smaller families **also** means / [that young children **encounter** fewer allergens in the home].

Thus, / **although** the hygiene hypothesis is an important area for research, / we cannot yet be sure / [that too much **attention** to cleanliness is the only explanation / for the enormous rise in the number of allergy **victims**].

内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を、誤っていれば×を記入しなさい。

- The trend towards smaller families has resulted in young children encountering fewer allergens in the home. ()
- If you want your children to be more resistant to allergies, you should have an only child. ()
- Children can develop greater immunity by being exposed to fewer allergens early in life. ()

覚えておきたい表現

the same is true of ~ (for ; with) 「～についても同じことが当てはまる」

ℓ.3 : **The same is true of** children who share their home with a pet. 「同じことが、ペットと家を共有する子供にも当てはまる。」

・ the same (thing) is true of [for ; with] ~ 「～についても同じことが当てはまる」: この「同じこと」とは前文の内容 = 「兄や姉と一緒に育つと、アレルギーに対して抵抗力がある」ということ。

Ex. **The same is true of** government policy against inflation. 「同じことが政府のインフレ抑止策についても言える。」

be less likely to do 「…する可能性が低い ; …しそうでない」

ℓ.4 : Such children **are** much **less likely to develop** the very common allergy to cat or dog hair 「このような子供は、ネコやイヌの毛に対する非常によく見られるアレルギーになる可能性はるかに低い」

・ are less likely to do 「…する可能性が低い」: be likely to do は「…する可能性がある ; …しそうだ」という意味。これに less 「少ない程度に」がつくと、「…する可能性が低い ; …しそうでない」という意味になる。なお、ここでは much が less を強調する役割を果たしている。

Ex. Compared with the new restaurant on Oak Street, this one seems **less likely to be** successful. 「オーク通りの新しいレストランと比較すると、この店が成功する可能性は少ないように思える。」

a wide range of ~ 「より広い範囲の～ ; さまざまな～」

ℓ.7 : being exposed to **a wider range of** allergens 「より広い範囲のアレルゲンにさらされること」

・ a wide range of ~ は「より広い範囲の～ ; さまざまな～」という意味なので、wide の比較級の wider にすると「現状よりも多くの種類の」ということを意味する。

Ex. The store carries **a wide range of** golf clubs. 「その店はゴルフクラブの品揃えがいい。」

整理しよう! *段落要旨・構造*

① 小家族化の傾向による影響

◆ ℓ.1 **also** 「また : 列挙・追加」

・ 小家族化もまた、幼児が家庭でアレルゲンに出会わなくなる要因。(←入浴・洗濯・掃除に加えて)

◆ ℓ.2 **In fact** 「実際には : 主張」

→ 兄や姉のいる子はアレルギーに対する抵抗力がある。(上の内容の裏付け)

・ ペットを飼っている家庭の子供も、アレルギーになりにくい。

◆ ℓ.6 **for example** 「例えば : 例」

(具体例) ペットを飼っている子は、ネコやイヌの毛にアレルギーを起こしにくい。

② 衛生仮説を絶対視することに対する懸念

・ 科学者 : 幼少期にさまざまなアレルゲンにさらされると免疫が強化されると主張。

◆ ℓ.9 **however** 「しかし : 逆接」

◆ ℓ.9 **also** 「また : 列挙・追加」

・ 遺伝、家庭収入、親の教育レベルもアレルギー発症に関係するというデータもある。

◆ ℓ.11 **Thus** 「したがって : 結果・結論」

◆ ℓ.11 **although** 「～だが : 逆接」

→ (結論) 衛生仮説は重要な研究分野だが、過剰な衛生への配慮がアレルギーの唯一の原因とは決められない。

背景知識

● 三大アレルギー性疾患とは

日本では、アレルギーの中でも特にアレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、気管支喘息^{ぜんそく}の3つが代表的なものとして、「三大アレルギー性疾患」と言われる。

アレルギー性鼻炎については、ある期間の花粉の飛散から生じる季節性のもので、花粉症が有名である。

アトピー性皮膚炎は、食物やダニ・カビなどがアレルゲンとして原因となる他、遺伝による肌の性質や悪化を促すものとして精神的ストレスや気候、加齢、感染症、大気汚染、接触因子など、さまざまな要因から皮膚の炎症、かゆみ、肌の乾燥といった症状が生じると言われる。アトピー性皮膚炎のアレルギー原因物質にはさらに金属も含まれ、例えば歯科治療で詰め物として用いられるアマルガム(水銀とその他の金属から作られる合金)は歯に詰めるとアレルギーを発生させやすいと言われる。

気管支喘息の主な原因物質はダニであるが、症状は呼吸が苦しくなるものである。この症状はアレルギー反応とその他の刺激によって、気管支を取り囲む筋肉が収縮したり気管支内の粘膜が腫れたりして、気管支が狭くなることで起こる。この際の原因となるアレルギー反応以外の刺激には、硫酸化合物、窒素化合物などの大気汚染物質などがあるとされている。

これらを含むアレルギー性疾患は1980年代から90年代にかけて特に子供に増加し続けており、加えて、症状も重くなっていることが報告されている。

【深めたい人に】: 家庭栄養研究会編『アレルギーと食・環境 — あなたにもできるアトピー対策』(食べもの通信社, 2001年)